

2022 年度 事業・収支予算計画について

つばめ福祉社会事業計画 3 カ年計画と 2022 年度計画

私たちは、福祉社会発足以来、障害者の持続的支援充実を目指して、2 年～3 年毎に事業改革や新事業発足を行ないながら、持続的経営の安定を維持してきました。

しかし、2019 年 6 月、ピアつばめ生活訓練事業再開以降、事業改革が停滞していた事に加えて、2020 年初頭以来コロナ禍に見舞われたこともあり、改革や新事業への取り組みなど数年間にわたり停止状態でありました。唯一昨年 9 月に、新物件取得による施設改革に取り組みましたが、物件取得自体が不調となり頓挫しました。

そのような推移の中で結果として支援活動の低下による運営基盤低下を招き、実質 2 年間にわたり、赤字決算を続けています。

この状態から本来の適正運営へ戻す為、3 カ年改革を策定し、この実行により確実に従来の安定運営に戻し、更に拡充へと向かいたいと思います。以下 3 カ年計画目標と、初年度の 2022 年度事業計画、収支計画を次の通り策定しています。

1. 事業 3 カ年計画 「2022 年度～2024 年度」事業計画大綱

つぎの 3 項目を 3 カ年の目標とし、赤字体質を脱却し適正安定基盤を実現します。

- ① 支援の充実と適正化を図る （多様化・拡大・利用者増大）
 1. 地域への貢献と交流・・・（社会福祉法人は地域の交流が肝要である。）
 2. 支援の高度化と先進化・・・（暖かい心と冷静な判断による施策、ICT の導入）
 3. 支援メニュー規模拡大・・・（未開拓事業、多機能化と従たる事業所など）
 4. 支援充実の社会的認識・・・客観的評価尺度による認識と運用
- ② 職員の処遇改善を図る （評議員、役員、処遇の改善含む）
 1. 常勤者平均年収 400 万円へむけてチャレンジ（3 カ年計画）
 2. 基本給改善（初任給と在職者、中途入職者への配慮）
 3. 改定実施時期（常勤者、非常勤者共年度昇給）
 4. 諸手当の充実
- ③ 人材育成を図る
 1. 管理者による、OJT 人材育成
 2. 試験資格取得、研修会参加による資格取得の奨励
 3. 内外の研修会参加の奨励

・上記事業 3 カ年計画の数値目標は下記の通りです。

つばめ福祉社会 3 カ年事業計画概略					
決算年度	2020	2021	2022	2023	2024
			1 年目	2 年目	3 年目
	単位＝円				
1.福祉サービス収入 (前年比伸長)	153,160,405	138,000,000	153,160,405	168,000,000	188,000,000
		90.1%	111.0%	109.7%	111.9%
施設体制適正化			ぶらっと採算化 オアシス採算化	基幹センター充実	新B型施設発足
2.福祉賃上給付金			1.5%	1.5%	1.5%
3.繰越差額金 % (同B型拠点)	5% 7%	0% 7%	2% 3%	2% 6%	2% 7%
4.人員計画			+2	+2	+3
5.人件費総額	99,089,818	100,000,000	114,000,000	125,000,000	140,000,000
6.平均年収		3,300	3,600	3,800	4,000
7.労働分配率	64.7%	72.5%	74.4%	74.4%	74.5%
8.累計繰越差額金	104,446,167	104,446,167	102,000,000	103,000,000	110,000,000

・また、3カ年計画のイメージは下記の通りです。

3カ年計画 2022年度～2024年度の概要						2022.1.24.
項目1	項目2	細目	2021	2022	2023	2024
1. 支援適正化	サービスの質向上	・人権重視、手厚い ・その人なりの自立支援 ・地域交流、非日常体験 ・支援技量の高度化				
	サービスの量増大	・利用者の増大 ・多機能、複合施設へ ・新事業発足				
2. 処遇改善	財源の確保	・支援の適正化による付加価値確保 ・収支差額繰越金充当 ・介護福祉給付金充当				
3. 人材育成	OJTと研修会	・仕事の分掌分担 ・内外研修会参加 ・資格取得の推奨				
繰越差額金		・流動性・健全性 ・人件費負担能力 ・拠点→本部へ繰入				

2. 2022年度事業計画

3カ年計画の初年度 2022年度計画は次の5項目を目標とします。

- ① オアシスの採算化
 - ・人体制面で、特に管理者配置の強力化適正化を図ります
 - ・運営方法を刷新し、利用者増大を図ります
- ② 基幹相談支援センター更なる拡充
 - ・西基幹センター充実拡大を図ります
 - ・基幹相談支援センター事業基盤の更なる拡充へ努力を傾注します
- ③ ぱらっと関連する事業設置を実現し採算化の解決
 - ・支援の充実、支援の質向上と量の拡大
 - ・新事業発足委員会発足（3月2日第1回開催）
- ④ 処遇改善改善策初年度（資金は支援の適正化による付加価値増大資金、労働分配率をアップする、国の処遇改善臨時特例交付金をあてる）
 - ・基本給の定期昇給を例年以上のレベルで実施する（交付金を活用する）
 - ・手当支給制度の改善を図る
 - ・処遇改善臨時特例交付金及び法人持出金の合算平均支給による改善を図る。
 - ・賞与算定基準の新設
- ⑤ 人材の育成 管理者の責任で実施する。
 - ・OJTによる育成
 - ・資格取得奨励
 - ・研修会、内部研修会、外部研修会（オンライン含）

以上を実施し単年度法人合算で、採算黒字化を実現します。

就労支援事業計画

● 事業目標

- 1、安心して過ごせる場所の提供。
- 2、職員体制が変わるため、新体制の組織作りと職場定着を目指す。
- 3、新規利用者を増やし安定した事業運営を行う。

● 事業計画

- 1、1) 利用者の満足度を高め、「明日も頑張ろう」と思える環境作りに努める。
2) コロナ禍における地域交流の仕方を創造する。
- 2、1) 研修への参加や資格取得をしながら現場の支援の質の向上に繋げる。
2) 職員間での助け合い、対話を重視し、モチベーションを保てる職場作りを行う。
- 3、1) 多機能化の検討と準備を行う。
2) ICTの活用で業務効率化を図り、利用者支援を充実させる。

つばめ工房原作業所 通所者数 平均/目標

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(人/日) 平均	合計
R3年度 通所平均	15.7	13.0	12.7	12.0	11.1	12.5	12.8	13.4	13.3	12.1	11.0	11.0	12.6	150.6
R4年度 通所平均目標	12.1	12.5	12.9	12.8	13.2	13.1	14.0	14.0	15.0	15.1	15.2	15.3	13.8	165.2

授産への取り組み

● 授産事業内容

自主製品…シフォンケーキ、クッキー、押し花作品の製造と販売

下請作業…チラシ(帳合)、ペロル作業、行楽用品袋詰め、公民館清掃、市政便り配布、スタンプ押し

● 活動目標

- ・「コロナリスク軽減」「仕事と工賃の安定提供」を優先し、下請けと自主製品のバランスを取る。
- ・押し花を応用した作品「押し花文房具」の開発と商品化を行い授産収益につなげる。
- ・菓子製造部門の収益性を検証し、採算がとれるようにする。

● 課題

- ・自主製品はバザーが軒並み中止になり主な収入源は委託販売であった。今後は納品先を開拓し、安定した収入を得る必要がある。
- ・下請けでは、コロナの影響で突然依頼がなくなる恐れがある。そのリスクヘッジをしておく必要がある。

その他

● 実習の受入 (※新型コロナウイルス感染状況により受け入れ中止の可能性あり)

麻生医療福祉専門学校、フチガミ医療福祉専門学校、より実習生を受入れ予定。

● 研修計画 (※新型コロナウイルス感染リスクが高いうちは、オンライン研修を主とする)

精神保健福祉士実習指導者講習会 メンタルヘルスケア研修

苦情解決システム研修 アンガーマネジメント研修

社会福祉協議会各種研修

虐待防止研修

● 年間行事等 (新型コロナウイルス感染リスクが低くなるまで基本自粛)

昨年同様に、事業所内での映画鑑賞、散歩、買物など、感染リスクが低いものは状況を見て判断。クリスマス会と初詣は行う予定。

令和4年度 職員体制

常勤	非常勤	常勤換算
4	2	5.2

就労支援事業計画

● 事業目標

- ①利用者一人ひとりが安心して通所できる関係作り、環境作りを行う。
- ②利用者一人ひとりがやりがいを持って、作業や活動に参加できる支援を行なう。
- ③通所停滞者への働きかけを行なうとともに、新規利用契約を増やすため、各支援者との関係を構築する。
- ④職員の支援技術の向上を図る。

● 事業計画

- ①現在の事業所の環境、設備の見直しを行い、目的や意義を考え関係の構築や環境の調整を行う。
- ②各利用者の目標に沿った、作業や活動への促し声掛けを行う。
- ③通所停滞者の理由を掘り下げ、原因へのアプローチを行うとともに、関係各所との情報の共有を行う。
- ④外部研修への参加だけでなく、利用者や相談者の事例を掘り下げ事例の検証を積み重ねていく。

オアシス B型 通所者数 平均/目標

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
R3年度 通所平均	5.2	6.0	6.3	6.0	6.7	7.2	6.4	6.0	6.5	6.0	5.5	5.5	6.1	73.3
R4年度 通所平均目標	8.0	8.0	8.5	8.5	9.0	9.0	10.0	10.0	11.0	11.0	11.5	12.0	9.7	116.5

授産事業計画

● 事業計画

- ①喫茶メニューの見直し
 - ②他施設授産品の取り入れ
 - ③外販の促進
- を基本とし、体制の変革を実施する。
オアシス弁当の見直しを実施、メニュー品目の削減を行い、外販への展開及び、
メインメニューの立て直しを図る。

その他

- 定休日の変更：【月曜日】→【日曜日】

● 実習の受け入れについて

- ・新型コロナウイルスの感染状況もふまえながら、実習の受け入れを検討していく。
- ・過去受け入れ先…筑紫女学園大学、麻生医療福祉専門学校

● 職員研修、スタッフ会議

- | | |
|---------------------|--------------------|
| ・スタッフ会議 | ・あいれふ定例会 |
| ・つばめ定例会 | ・ちゅうちゅうネット研修会 |
| ・就労支援連絡会 | ・就労支援事業所研修会 |
| ・福岡市精神保健福祉協議会 | ・精神保健福祉従事者研修 |
| ・福岡市精神保健福祉センター運営協議会 | ・虐待防止研修 |
| ・食品衛生責任者(管理者)研修 | ・感染症予防研修 |
| ・工賃向上研修 | ・あいれふ(保護会館)防災・消防訓練 |

※オンライン研修対応を検討する。

● その他行事、イベント

- | | |
|------------------|------------------|
| ・舞鶴地区行事(夏祭り、文化祭) | ・合同スポーツ大会 |
| ・健康フェア(協賛) | ・市民糖尿病教室(医師会コラボ) |
| ・みんなの集い/ハートメディア | ・花見 |
| ・暑気払い | ・クリスマス会 |
| ・初詣 | |

※ 新型コロナウイルス感染状況により、随時検討する。

令和4年度職員体制

常勤	非常勤	常勤換算
3	2.5	4.8

就労支援事業計画

● 事業目標

1. 利用者と職員が本来の自分を発揮し、笑顔でいきいきと過ごせる自由な雰囲気のある場を作る。
2. 利用者全員に十分に目と心を行き届け、それぞれの事情に沿った個別の支援を強化する。
3. 作業の充実と作業工賃のアップを目指す。
4. 事業所として常に前を向き、今に満足するのではなく新しいことに取り組む前進する姿勢を持つ。

● 事業計画

1. 新型コロナウイルス感染対策を徹底して感染者を出さないように心がけ、日中活動の場を維持する。
2. 多機能事業所として、B型、生活訓練とも一定の通所者数を確保し、安定した運営を目指す。
3. 対話を増やし、悩みや課題の解決を図り、利用者の安心感を高める。個別支援の充実。
4. 職員、利用者全員が必要とされていることを感じとれ、希望を持てる場所を目指す。
5. B型と生活訓練がお互いに良い影響を与え合い、助け合い、協力し合えるような関係性を作る。
6. 利用者のステップアップのための動機づけと機会の提供。
7. 職員が働きやすい環境を作り、長期にわたって物心共に安心して定着できる職場を目指す。

ピアつばめ B型 通所者数 平均/目標

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
R3年度 通所平均	15.3	15.5	14.8	13.9	14.0	15.0	15.0	14.9	14.1	13.4	13.2	13.2	14.4	172.3
R4年度 通所平均目標	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0	15.5	15.5	15.5	15.5	15.5	15.5	15.3	183.0

授産への取り組み

● 活動目標

1. 自主製品制作と請負作業を組み合わせ作業を提供する。利用者が体調、能力、適性によって数種類の作業を選べるように柔軟性を持たせる。
2. 単価の高い仕事を発掘し、利用者の工賃アップにつなげる。
3. スタッフの細かい指示がなくても利用者が自ら積極的に気付き、動ける自主性、積極性を育てる。
4. 出席率の向上。

● 課題

1. 低単価の作業に甘んじるのではなく、アンテナを張って高単価の作業が得られるように努力する。
2. 最近B型の見学、体験者が減っており、新規利用者が増えていかない。周知を図り、利用者の増員を図る。
3. コロナ禍が落ち着いたなら、ぜひ新しい事業（仕事）を考えたい。利用者から「作業が単調、退屈」などの声も聞かれる。利用者にとっての魅力的な事業所になるためには新しい変化も必要と思われる。

その他

● 実習の受入

新型コロナウイルス感染の状況を見ながら、受け入れ検討の予定。

● 職員研修

サービス管理責任者研修（初任者、現任者）

苦情解決従事者研修

虐待防止研修、キャリアパス対応生涯研修等

新型コロナウイルス感染の状況を見ながら受講検討の予定。

● 行事

新型コロナウイルス感染状況を見ながら、利用者の楽しみとなるような行事をその都度検討し外出行事などを多く取り入れたい。



ネギ調整作業

令和4年度 職員体制		
常勤	非常勤	常勤換算
3	3	4.1

自立訓練（生活訓練）事業計画

● 事業目標

1. 安心できる居場所であると同時に、夢や目標に向かって前進できる場所を作る。
2. 自立し安心して楽しく日常生活が送れることを目的としてプログラムを行う。
3. 利用者の自尊心の回復と生活上の目標の設定を支援する。
4. それぞれの個別支援計画に基づき、一人一人の状況に応じた個別の支援を充実させる。

● 事業計画

1. 利用者にとって興味を持てるプログラムを作成し、集中して取り組めるよう環境作りに努める。
2. 出席率を上げ、生活訓練自体の活性化、運営の安定化を図る。
3. 引きこもりがちな利用者の通所を促し生活リズムを確立し、意欲、集中力、持続力を醸成する。
4. 利用者の実生活に必要な技術、体力づくり、生活の質を高めるためのプログラムの提供。
5. 個別の対話を大事にしてニーズを探り、個別の支援を充実させ、サービス内容が常に現状に即したものとなるように支援する。

ピアつばめ 生活訓練そらいろ 通所者数 平均/目標

(人/日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	合計
R3年度 通所平均	3.3	3.3	3.4	3.5	4.2	3.3	3.7	4.0	5.1	5.8	5.5	5.5	4.5	40.6
R4年度 通所平均目標	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.7	5.7	5.7	5.7	5.8	5.8	5.8	5.7	51.2

訓練への取り組み

● 活動目標

1. 規則正しい生活を送るために通所回数が増やせるように、「来たくなる」心地よい居場所としての「そらいろ」を作る。
2. 遅刻をせずプログラムにきちんと参加して、集中して真摯に取り組むことができることを目指す。
3. 基本的な生活習慣を身に付け、挨拶や身だしなみ、言葉遣いなどを学ぶ。
4. 生活に楽しみや希望を持てるように、活動に季節感も取り入れ、趣味充実や健康回復のための訓練を充実させる。
5. 利用者の生活の様子を把握し、露出していないニーズや悩みを探り解決の支援を行う。
6. 作業訓練の時間を取り入れ、生活訓練終了後の進路を考えるきっかけをつくる。

その他

● 実習の受入

B型に準ずる

● 職員研修

B型に準ずる



R3.12月 クリスマス会

R4年度	職員体制	(予定)
	常勤	常勤換算
	2	2

地域活動支援センター事業計画

● 事業目標

- ・地域で暮らす障がい者やそのご家族をはじめ、地域の方、関係機関、職員が互いにつながり、支え合いながら誰もが安心して過ごせる居場所づくりに努める。
- ・利用者と職員が一体となって地域交流を図り、役割や楽しみを見出せる社会づくりを目指す。
- ・利用者へより良い対応ができるよう、職員は研修会などに積極的に参加する。

● 事業計画

- ・利用者を温かく迎え、安心して過ごせる場の提供に努め、リモートなども取り入れながら相談に対応する。
- ・利用者の想いを形にできるような活動を工夫し、また他の社会資源や地域への連携力を高める。
- ・職員は研修参加などを通して障がいの理解を深めるとともに自己理解にも努める。

Ⅰ 型事業への取り組み

● 目標・課題

1. 個別支援の充実
2. 地域との連携強化
3. 人材育成の強化

● 具体的な内容

1. 館内の温かい雰囲気づくりに努め、利用者が相談しやすい環境を提供できるよう配慮する。
また、リモート環境を使って利用者や他機関との連携力を強化しニーズに沿った適切な支援に努める。
2. 利用者、地域ボランティア、職員が共に活動を行うことで、障がいへの理解の促進に努める。利用者が自身の想いを表現する活動を通して周囲の思いもまた受入れることを学ぶ。
3. 利用者と共にあることに根ざし、幅広く受け入れるため様々な障がいの理解とともに自己覚知を深める研鑽を積む。

その他

● 実習生の受入

令和4年度も、大学と専門学校から実習生を受け入れる予定。精神保健を学ぶ学生に、障がいについての理解を深めてもらいたいという思いと、採用につながる可能性もあり、面接だけよりもより学生を見ることができるよう、今後とも受け入れを行っていく。

● 職員研修

相談支援従事者初任者研修(1名)

そのほか他機関で行われている精神疾患や各種障がいの支援についての研修に参加する。

● 居住サポート事業

賃貸契約による一般住宅（公営住宅及び民間の賃貸住宅）への入居を希望しているが、保証人がいないなどの理由により入居が困難な障がいのある方等に対して、入居に必要な調整等・家主等への相談・助言も含め支援を行い、障がいのある方の地域生活支援を行う。

● 新たな取り組み

就労が難しかったり、さらに来所が難しい利用者にも支援が行き届くような新規事業の立ち上げを検討する。

● 事務作業の自動化

利用者を取り巻く環境のデータを整理し、事務処理をさらに効率化するシステムづくりを行う。

	R3年度登録者数	R4年度登録者目標数	
	88	90	
	R3年度1日平均利用者数	R4年度1日平均利用者目標数	
	19	19	
R4年度職員体制		常勤	非常勤
		2	3
		常勤換算	
		4.3	

● 事業目標と計画

1 区ごとのネットワークの構築

- ・「西サポネット」実行委員会の運営
- ・「西サポネット」研修の開催:オンライン、通常研修、ハイブリット式での実施
- ・サービス種別研修の実施

2 区内の相談支援事業所のネットワークの構築

- ・相談支援事業所『西区相談あつまろう会』の実施
- ・ケアマネ、相談支援専門員の連携の構築
- ・医療・地域福祉の連携構築『包括ケアシステム』

3 区内の相談支援事業所に対する専門的な指導・助言・人材育成

- ・ケース検討会の実施、および同行支援、ケースマネジメント

4 地域福祉の基盤づくり

- ・地域包括支援センターとの連携
- ・社会福祉協議会CSWとの連携協議
- ・圏域会議への参加～介護と福祉の共同
- ・SSWとの連携強化～学校と地域のネットワーク、不登校支援～引きこもり予防

5 緊急時の対応についての取組

- ・緊急時受け入れ・対応拠点との連携
- ・地域資源の緊急時対応のネットワーク：運用基準の検討、試用
- ・緊急時拠点事前登録の促進
- ・緊急時対応者リストの作成

指定特定相談支援事業計画

● 特定相談・一般相談

- ・地域移行・地域定着の推進～新型コロナウイルス影響下での退院促進
- ・加算申請、請求体制の整備
- ・サービス等利用計画作成の推進

その他

● 職員研修

- ・区障がい者基幹相談支援センター相談支援専門員研修年度計画に基づき参加
- ・ゆうゆうセンター・よかよかルーム合同研修会(1/3か月)：企画、実施

● R4年度課題

- ・事業拡大に伴う人材育成
- ・次世代の支援者育成
- ・離島3島への地域介入、及び在島障がい者への介入、支援

R4年度職員体制

常勤

7

常勤換算

4.8